



とうとう11月を迎えてしまいました。一段と寒さがきびしくなります。こどもたちの活動は、園舎の中へ集中します。

生活発表会へむけて、エンジン全開です！

■10月のホカホカとあたたかな朝の園庭。

秋の温かな陽ざしの中、こどもたちはそれぞれがおいおいのあそびに夢中です。

「わーすごい！」「ほんた、すごい！」の声・声!!
あわてて観ると、こどもたちより はるかに大きな身体が 逆立ちをして数歩 あるいは数歩 ありませんか！

芝生の上で逆立ちの練習をしているこどもたちに混じってすみれのひなせこいでは！びっくりです！

「わたしも 逆立ちして あるきたいので、練習して きます！」の返事。

開園以来5年目ですが、はじめてです。やわらかな芝生の上なのでケガの心配は少ないですが、名人合格を待ちます♡

■うれしいお知らせ♡

11月24日(木)、ヨシモトのお笑い劇場が幼稚園に来てくれます！



実は、さき組の山本うみちゃんのお父さんがヨシモトの芸人さんで「すずらん」という芸名で、札幌で活躍しております。

山本うみちゃんのお父さんのご好意で来園していただきます。

こどもたちにとっては、TVの画面ではなく、直接目の前のお笑い劇場になります。たのしみですね♡

(心の育ちシリーズ)

抱っこの宿題

小学一年生のこはるちゃんが、学校から帰ってきてうれしそうにこう言った！「お父ちゃんきょうの宿題は抱っこー！」「まっせー！」と平田さんはしっかりとこはるちゃんを抱きしめた。その夜、こはるちゃんはお母さんにも、二人のお姉ちゃんにも抱っこして貰って、クラスでは抱っこのチャンピオンに。

数日後、お父さんはこはるちゃんに聞いた。「学校のときたちみんな抱っこの宿題して来たか？」と。するとこはるちゃん、悲しい答が返ってきた。「何人かはしきとらんやっ！」でも、捨てる人ではない。次に出た言葉に救われた。「だけん、その子たち先生に抱っこして貰ってた！」と。ステキな先生だと思った。1年生か2年生なら取っかかすに抱っこして貰うだろう。人間には抱っこは必要である。幼少期にしっかり抱っこして貰った子は、大きくなって潜意識が記憶すると言う。

フロイトの分析によると、3歳ぐらゐから本格的な親子分離がはじまり、同時にこどもの心に芽生えるのが2面性である。

- ・ 抱っこされたい けど、拘束されたくない
- ・ 自由にあそびたい けど、親から離れたくない
- ・ 親がうざりたい けど、親にしがみつきたい

幼児は、この心の葛藤をく返しながら、親から少しずつ離れて行き、親が近くに居なくてもそれに耐える力を持つようになる。この力を持つようになるには、「抱っこ」が大切だ。

幼児期にたっぷり愛情を注がれた記憶があると帰る場所があると言う安心感が心の真中に出来る。こはるちゃんは自立に向けて「人生のコマ」を次の発達段階へすすめることが出来る。

幼児期に忘れた「抱っこの宿題」は思春期に歪んで出てくる。男子はずっと抱っこしたいマザコンになったり、女子は異性へと走り出す。「抱っこの宿題」は親への宿題だった

山本うみちゃん 中央新聞より